

第1回医療部会（地域医療構想調整会議 個別調整会議） 議事概要

【日 時】令和元年9月10日（火）19:00～21:00

【場 所】雲南市役所

【出席者】別添資料のとおり

【議事内容】

開会あいさつ（雲南保健所 梶浦 所長）

- ・今年度、医師確保計画等を策定することとなっており、県庁でも目標医師数の設定について検討されているところ。12月上旬には施策をとりまとめる予定。
- ・本日は圏域計画の骨子案について意見交換をさせていただきたい。
- ・管内の病床機能の状況も確認する。
- ・奥出雲コスモ病院が当圏域の認知症疾患医療センターに指定される予定であることをご報告する。連携型のセンターということで、管内の病院のご協力が不可欠。よろしくお願ひしたい。

確認事項（雲南保健所 総務保健部 黒崎 部長）

資料確認、謝金等について、公表について、本日の進め方について

※本部会は、経営に関わる議題も扱うため、会議当日は非公開とする（後日、資料及び議事概要のみHP公開）。

議 題

1. 病床機能の現状について
2. 医師確保計画について
3. 外来医療計画について
4. その他

※第2回医療部会を11月上旬～中旬に予定。素案を提示予定。

【主な意見】

1. 病床機能の現状について

- ・病床機能報告で各病院から報告された機能毎の病床数と地域医療構想で示した必要病床数は乖離している状況だが、定量的基準を用いて算出した結果をみると、雲南圏域は病床数的にはクリアできている。
- ・昨年度示したデータとあわせて、回復期の患者も圏域の医療機関で対応できていると評価できる。

2. 医師確保計画について

- ・市部から通勤できる勤務体制など、医師の生活という視点も計画に落とし込めるとよいのではないかと。
- ・タスクシフト、タスクシェアを実現するために必要な医師数を確保するというのをしっかりと盛り込んでいく必要がある。
- ・若手医師を派遣してもらうためには、指導医の確保が必要。圏域の指導医の監督下に若手医師を派遣してもらう形になるのではないかと。圏域として受

けて調整する形が望ましいのではないか。

- ・医師の働き方改革について、長時間の時間外勤務や当直明けの勤務、休暇の取りづらさは大きな課題。改善するためにも医師の絶対数の確保が必要。
- ・やりがいをもって雲南圏域で働く若手医師の意見を参考にすることで、打開策が見出せるのではないか。

3. 外来医療計画について

- ・雲南圏域は開業医が少ないため、病院がかかりつけ医機能を持って外来患者を診ている現状がある。開業医の高齢化や後継者不在による閉院等により、今後ますますこの傾向は顕著になると予想される。こうした状況を含めて医師の配置を考えるべき。
- ・タスクシフトの視点で、看護師もある程度医療行為ができるように推進していかなければならないという話は出ている。また、ヘルパーや住民のボランティア団体が見守りなどできる仕事を広げていくために指導をしていく等裾野を広げていく必要もある。

【協議結果について】

- ・本会で出た意見を踏まえ、今後も関係機関の意見を伺い計画の素案を作成する。